

抱っこひもからの子どもの落下に注意

～赤ちゃんが重篤なけがを負っています～

【事例】

- 荷物を取ろうとして前かがみになったら、子どもが抱っこひもから転落した(0歳2ヵ月)。
- 子どもが抱っこひもの横からすり抜け、地面に落下した。新生児用のオプションパーツは使用していなかった(0歳1ヵ月)。
- 子どもを抱っこした状態からおんぶに切り替えようとしたら、抱っこひもから子どもが滑り落ちて1mの高さから落下した(0歳4ヵ月)。

【傾向】

- 月齢3ヵ月頃までの乳児の受傷が多く、頭がい骨骨折、頭がい内血腫、くも膜下出血など、頭部の骨折や頭がい内損傷が多い。
- 落下事故は、抱っこひもの着脱途中、ストラップの調整中、前かがみになった時、抱っこひもが外れた時など、様々な場面で発生している。
- ソファや大人用ベッドよりも高い位置からの落下が多い(平均約95cm)。

【アドバイス】

- 取扱説明書に従って、正しく装着しましょう。
- 安全基準に適合していることを示す「SGマーク」を製品選びの参考にしてください。
- 中古品を入手する時は、リコールの有無、製品(付属品含む)の状態をよく確認しましょう。
- 同じ着用者でも、服装が変わると装着状態が変わります。使用の都度、ベルトなどを調整しましょう。
- 抱っこひも着用中は前かがみならず、子どもを手で支えながらひざを曲げてしゃがみましょう。
- 抱っこひもの着脱、着用姿勢を変える時は、低い位置で行いましょう。



服装が変わると装着が緩くなるため調整が必要

消費生活

ストップ!
ザ・悪徳商法

通信

令和7年6月
vol.176

岡役場町民課
消費生活センター
☎27-1958(直通)
※来所の際は事前にお電話
いただくと確実です